

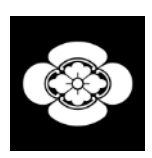


The Garden of Medicinal Plants, Kinki University

**ワレモコウ**  
 学名 : *Sanguisorba officinalis*  
 生薬名 : 地榆(ちゆう)  
 薬用部位 : 根および根茎  
 薬効 : 止血、消炎、収れん



ワレモコウの小さな実のような暗赤紫の花が静かに風に揺られる姿は、秋の訪れを感じさせます。バラ科でありながら華やかな花はつけませんが、生け花ではススキなどと同様に秋を表すのに欠かせない花材です。漢字では、「吾木香」「吾亦紅」「我吾紅」「割木瓜」など様々に書かれます。その由来は定かではなく、花が小さく目立たないため「我も紅なり」と主張の意味とする説やつぼみが割れて花を



咲かせるワレモコウが神社の御簾の縁を囲む布(帽額)に多く使われた文様に由来する「木瓜紋」という家紋に似ていることから「割木瓜」とされたという説もあります。



学名の *Sanguisorba* はラテン語で *sanguis* (血) と *sorbeo* (吸収) が語源で、この植物の止血作用に由来します。生薬「地榆(ちゆう)」は根および根茎を薬用部位とし、2000年前の薬物書『神農本草経』に記載されています。タンニンやサポニン類を多く含んでおり、止血、消炎、止瀉、収れん薬として吐血、月経過多、血便、胃痙攣などに用いられてきました。煎じた液は、熱傷の治療作用、止血、抗菌作用があり、熱傷、創傷、湿疹、皮膚炎などに外用とされたり、うがい薬として口内炎や咽頭炎に用いられます。

また最近では、抗酸化、抗炎症、抗菌、美白作用に関する研究がすすめられ、地榆エキスが化粧品などに配合されています。

